

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 7月 10日

【評価実施概要】

事業所番号	0170400709		
法人名	有限会社 ソラ		
事業所名	グループホーム笑顔の村		
所在地	札幌市手稲区稲穂二条6丁目3番8号 電話 011-688-1513		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成19年7月6日	評価確定日	平成19年8月3日

【情報提供票より】（平成19年4月1日事業所記入）

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年12月9日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	8 人	常勤 5 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	5

(2) 建物概要

建物構造	木造モルタル	造り
	2階建ての	1～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり		円

(4) 利用者の概要(4月 1日現在)

利用者人数	8名	男性 3名	女性 5名
要介護1	1	要介護2	2
要介護3	4	要介護4	1
要介護5		要支援2	
年齢	平均 81.3歳	最低 68歳	最高 93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	手稲溪仁会病院	西成病院	みき内科クリニック
---------	---------	------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「笑顔の村」は、閑静な住宅地の一角にあり、地域に溶け込んだ建物である。「認知症であっても、その人らしく安心して暮らすことができ、また残存機能を活かし、生き生きとした生活が出来るように」というホームの考えから既存の家を改造し少人数の利用者を受け入れる方針を採っている。ホーム内は使いやすいように至る所に工夫が見られる。また職員間では利用者用と職員用の申送りノートを作成し、小さなことでも書き留めておき全職員が目を通しサインをし毎日のケアに役立てている。代表者始め職員は尽きることのないケアサービスの向上に情熱を持ち、機能回復や利用者との会話を大切に、笑顔の絶えない心のふれあいを大事にしているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>介護計画は、3ヶ月毎に見直しを行ない、利用者の状態の変化に応じて、利用者、家族と話し合いを持ち、随時の見直しを行なっている。外部研修については、年に数回参加をしているが、シフトの関係から全職員の参加には至っていない。参加後はミーティングなどで報告しているが、研修記録は作成されておらず検討中である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価に際しては、代表者始め管理者は、評価の意義や活用の仕方などについて周知・徹底を図り全職員で実施した。これからの対応についても詳細に記録されておりました。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は昨年から2回開催されております。内容はホームの運営理念やホーム内の状況報告などをされていることが会議記録から観えます。ホーム側は2ヶ月に1度継続的に行なわれるよう働き掛けているが、途中町内会長が代わり現在開催できない状況にある。早めに推進会議が再開できることを期待します。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ご家族との関係は良好で、毎月の「ホーム便り」のほか、個々に手書きの手紙を同封したり、ご家族向けのホームページにより生活情報を提供している。遠方にご家族の方からお返事を頂いたりしている。またどんな小さな事柄であっても電話で報告したり来訪時にお話したりして、常に家族の立場に立って考え家族のケアにも力を入れております。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入しており、町内の清掃活動や諸行事などにも参加し、近くの保育園との交流も行なっている。地域の一員として日常的に関わりを大切にしている。</p>
重点項目④	

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームとして地域密着型サービスの意義を理解し、地域の一員としての人間関係を築き交流を深める理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送りやミーティングで理念を共有し、具体的なケアについて話し合いをし実践にむけて取り組みをしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の清掃活動や行事にも参加し、地域の一員として交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	月一回「笑顔の村」4グループホーム合同の管理者会議を行ない、評価の意義や活用の仕方などを確認した。職員にはミーティングで徹底を図り、具体策を検討し実践に向けて取り組んでいる。		

札幌市 グループホーム笑顔の村

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の開催ですが、今まで協力して頂いておりました町内会長が代わり、現在会議が開催できない状況にある。	○	過去2回行なわれておりホーム側も継続的に開催できるよう働きかけを行っており、早めに会議が開催されますよう期待いたします。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は区の会議や勉強会に積極的に参加をし、ホームの現況など情報を伝えたりし常に連携を図りサービスの向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の「ホーム便り」のほか、個々に手書きの手紙を同封したり家族向けのホームページにより生活情報を提供している。金銭出納も作成し、「ホーム便り」とともに毎月送付しております。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱も設けておりますが、どんな小さなことでもきちんと記録、報告を行っている。来訪時には声かけをし、問題が発生した時は話し合いを下に今後の運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動に際しては、1ヶ月前からケアの一貫性と利用者のダメージを最小限にするために検討し、利用者や家族への配慮を含めた対応を行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は実施しているが、外部研修はケアマネジャーと一部の職員の参加に留まっている。参加後は研修内容の報告はされているが、研修記録などは作成されておられません。	○	今まではシフトの関係などで全職員が研修に参加ができておりませんでした。現在取り組みを検討しており、早い時期に実現されることを期待いたします。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ほかのグループホームの管理者の方々との意見交換や勉強会を行なっている。また、ほかのホームを訪問・見学しサービスの向上に活かしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者、家族に見学に来ていただき生活状況などに馴染み、利用者が安心して生活ができるように、十分話し合いを持ちながら進めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理や畑仕事など、利用者が得意とする分野で力を発揮できるよう場面設定をし、本人から教えて頂いたり一緒に作ったりしながら利用者の気持を汲み取り、支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で言葉や表情などから希望や思いなどを把握するよう努めており、意思疎通が困難な方は表情を見逃さず職員同志で話し合いをし、利用者の立場や視点に立った意見を出し合い検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の希望を取り入れ、アセスメントをもとにカンファレンスを通して本人にとってより良い暮らしができるように検討し、利用者本位の計画を作成し実践している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月毎に見直しを行なっているが利用者の状態の変化に伴い随時に計画の見直しを行なっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族、利用者からの要望に対応して送迎を中心にしたサービスを行なっている。また、介護、医療、福祉などに関する地域住民からの相談にも応じている		

札幌市 グループホーム笑顔の村

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間対応の協力医療機関があり、訪問診療や年2回の健康診断を実施している。利用者や家族の希望を聞きながら安心して暮らせるよう支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者や家族の意向を取り入れその都度確認しながら、利用者・家族に医師を交え繰り返し話し合いを持ち、対応方針について慎重に検討し取り組んでいる。		
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレの誘導や失禁、汚れなどの対応については、利用者の立場に立ち声掛けには十分な注意を払いながらプライバシーを損ねる言動を摂らないように配慮をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての基本的な1日の流れはありますが、一人ひとりの生活のリズムを職員が把握し、利用者のペースを大切にして柔軟に対応をしている。		

札幌市 グループホーム笑顔の村

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片づけなどの一連作業は、できる範囲でお手伝いをしており、職員との会話や利用者同志の会話も自然に行なわれており、家庭的で和やかな雰囲気を作っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の回数、曜日など決めておらず、利用者の希望に応じて入浴ができるように支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日行なわれているラジオ体操や畑仕事を始め洗濯物たたみ、お習字など、利用者や家族からの聞いたことを参考に得意分野を把握し、支援に繋げている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日近くの公園へ散歩やスーパーへ買物に出掛けている。また、ドライブに出掛けたり毎年恒例の4グループホーム合同の夏祭りやバーベキューなど、家族も一緒に参加ができる催し物を行ない、気分転換ができるように支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けておらず、利用者が外出しそうな様子が見られたら声掛けをし一緒に出掛けている。常に見守りをし鍵を掛けなくてもすむケアの取り組みを行なっている。		

札幌市 グループホーム笑顔の村

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災の避難訓練は、年2回以上行なわれている。地域の協力が得られるよう日頃から働き掛けをしている。災害時マニュアルを、火災・災害（地震・風水害）・救急編に分け緊急時には対応している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量や食事摂取量は記録されており、一人ひとりの体調に合わせた適切な支援ができるように配慮されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には利用者と職員が一緒に作った作品や写真を飾り、生活感や季節感を採り入れている。不快な音や光にも配慮され居心地良く自分の住まいの意識を高める工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や日用品が持ち込まれ、居心地良く安心した暮らしができるよう配慮がされている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。